

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

論述字数が大幅に減少し、選択形式で解答する考察問題の数が増加した。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	選択 記述 論述	免疫	生物 基礎	問6 C群のT細胞集団では、制御性T細胞の働きにより、タンパク質Xに対してアレルギー反応を引き起こすヘルパーT細胞の活性化、増殖が抑制されている。	やや難
[2]	選択 記述 論述	植物の反応	生物	問3 台木に野生型、穂木に変異体yを組み合わせた個体において、側芽が成長し、野生型と異なる結果であったことに着目する。	標準
[3]	選択 論述	ホルモン	生物 基礎 ・ 生物	問6 骨芽細胞と破骨細胞をフィルターで仕切ると骨破壊がほとんど起こらなかったことから、骨芽細胞と破骨細胞の接触が骨破壊に必要であると考ええる。	標準
[4]	空欄補充 選択 論述	遺伝子	生物	問5 3塩基の欠失あるいは挿入のいずれかを解答すればよいだろう。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

まずは標準的な知識を尋ねる問題での失点をできるだけ少なくしなければならない。教科書の内容を正確に理解し、説明できるように練習しよう。また、いずれの大問にも考察問題が含まれており、文章の読解力やデータの考察力が試される。初めて見る題材に対しても落ち着いて論理的な思考ができるように、考察問題に慣れておく必要がある。過去問と類似した内容が出題されることがあるので、過去問演習をしっかりと行おう。今回は出題されなかったが、呼吸や細胞分裂などの分野も出題頻度が高いので注意しておこう。分子レベルの内容が多く出題されるため、特にタンパク質に関連するテーマについてはしっかり学習しておこう。